

加美町

秋の恵みも満喫して

加美町ねんりんピック推進室の小山弘室長



岩沼市で予定していたソフトバレーボールの代替開催地に決まったのは昨年8月。加美町ねんりんピック推進室の小山弘室長は「前回のくまもと大会を視察し、盛大な歓迎ムードに感激した。と同時に、加美町でも同様の運営、もてなしをしなければと気が引き締まる思いだった。準備期間が短く、スタッフ一丸となって取り組んでいる」と話す。

会場は宮崎地区の陶芸の里スポーツ公園にある総合体育館。比較的コンパクトな体育館のため、パイプ椅子を持ち込んで観覧席を増やし、屋外にテントを設けて選手控え室にする予定だ。

会場では、地元の中学生によるマーチングバンドの披露といったイベントの開催も企画している。

米どころ、酒どころでもある加美町。豊富な地酒がそろう、大会のころは新米が味わえる。

小山室長は「薬菜高原に咲くコスモスの観賞や、陶芸の里ゆ〜らんどでの温泉入浴など、秋の加美町も満喫して」とPRする。



秋風に揺れるコスモスも楽しんで

◎準備状況や観光情報を発信
ねんりんピック宮城・仙台 2012 加美町特設ホームページ
<http://www.town.kami.miyagi.jp/section001/nenrin/nenrincipic.jsp>

東日本大震災で被災した宮城県沿岸部の3市町（石巻市・岩沼市・南三陸町）に代わり、大会種目を受け入れることになった松島・加美・七ヶ宿各町。急ピッチで準備が進むそれぞれのねんりんピック推進室を訪ねた。

「被災したまちの分も」開催に意欲

ねんりんピック舞台裏レポート その2 七ヶ宿・加美・松島各町ねんりんピック推進室

七ヶ宿町

自然の中で気持ちよくプレーして



七ヶ宿町ねんりんピック推進室の二関治係長（写真左）、日野伸室長（中央）、高橋慎太郎主査

南三陸町に代わり、グラウンド・ゴルフ（以下GG）競技の開催を引き受けた。七ヶ宿ダム湖畔のコースは、県内にある日本GG協会の認定コース5カ所のうちのひとつ。ねんりんピックでは、この風光明媚（めいび）な会場に全国から選手や関係者ら500人余りが集まる。

推進室の二関治さんは「自然の中で気持ちよくプレーしてほしい」と話す。

GGはルールが易しく、場所を問わず、1人からできる生涯スポーツ。競技は3ラウンド24ホールの個人の合計打数で競う。「ホールインワンが出ると、その場にいるみんなで盛り上げられます」（二関さん）

競技会場では、地元の農産物の販売やキノコ汁の提供、ミニツアーといった、もてなし案も検討中だ。また「南三陸町の写真を展示したり、義援金を募ったりと被災地の応援も考えています」と高橋慎太郎さん。



日野伸さんは「引き受けたからには、全国からいらした方々に来てよかったと言われるよう、南三陸町の方まで頑張りたい」と意気込む。

七ヶ宿はそばが有名。開催時はそば街道に立ち寄るのも一興だ。

◎準備状況や観光情報を発信
七ヶ宿町保健福祉課ねんりんピック推進室ホームページ
<http://www.town.shichikashuku.miyagi.jp/nenrincipic/>

松島町

おもてなしの心忘れずに

サッカー交流大会は、東日本大震災で津波被害が甚大だった石巻市に代わり、松島町が利府町と共同で開く。松島町ねんりんピック推進室長の佐藤淳さんは「開催がかなわなかった被災地の力にもなるはず。復興しつつある松島で必ず大会を成功させたい」と意気込む。

大会でのスムーズな進行に向け、利府町や県サッカー協会などとの打ち合わせは月に一度のペースで実施。佐藤さんら関係者は競技の概要を把握しようと、昨年のかまもと大会を視察した。「スタッフの親切な対応が印象的だった。私たち受け入れる側は『おもてなし』の心が大切



松島町ねんりんピック推進室の佐藤淳室長

だと感じた」と佐藤さん。

今年のサッカー交流大会は、56チームの参加を募集しており見応え十分だ。佐藤さんは「松島でサッカーをしてよかった、見に来てよかったと思えるような大会を目指す。エールを送りに、ぜひ会場へ」と呼び掛ける。

大会が開かれる10月は、松島名物カキのシーズン。サッカー会場では、かき汁が振る舞われる。松島が誇る旬の味覚が、多くの来場者を喜ばせてくれるだろう。



開催時期の10月は松島名物カキも楽しめそう